

比 惠 56

— 比恵遺跡群第 113 次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1050 集

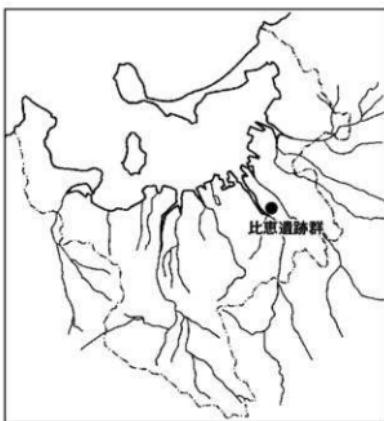
2 0 0 9

福 岡 市 教 育 委 員 会

比 恵 56

— 比恵遺跡群第113次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1050集



遺跡略号 HIE-113

調査番号 0761

2009

福岡市教育委員会

序

玄界灘に面し古くから大陸との文化交流の玄関口であった福岡市には、豊かな自然と文化が残されています。の中でも博多区は大陸との交流で古くから栄え、遺跡も多く存在しています。これらを保護し、未来へと伝えていくのは本市に課せられた責務であります。しかし、近年の著しい都市化による市街地の拡大により、その一部が急速に失われつつあることもまた事実です。福岡市教育委員会は開発によってやむを得ず失われていく遺跡について、事前の発掘調査を行い、記録の保存に努めています。

今回報告する比恵遺跡群の発掘調査報告書は共同住宅建築に伴う調査成果についての記録です。この調査では弥生時代の大型掘立柱建物と集落、そして古墳時代後半から古代の集落を確認しました。本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また研究資料として御活用頂ければ幸いに存じます。最後に発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに対して心から謝意を表する次第であります。

2009年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 山田 裕嗣

例　言

- 本報告書は博多区駅南4丁目122番2の共同住宅建設に伴って2008年1月10日から2月18日にかけて発掘調査を行った比恵遺跡群第113次調査の報告書である。
- 本書に収録した発掘調査は福岡市教育委員会の屋山洋が担当した。
- 造構・遺物実測、造構・遺物の写真撮影は屋山が製図は熊谷幸重と屋山が担当した。
- 本書で用いた方位は磁北である。
- 造構・遺物番号はそれぞれ通し番号とした。
- 本書に関わる図面・写真・遺物など一切の資料は福岡市立埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。
- 貿易陶磁の分類は大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－（2000年）大宰府市教育委員会を参照した。

遺跡調査番号	0761	遺跡番号	020127	分布地図番号	東光寺37
調査地地番	福岡市博多区博多駅南4丁目122番2				
開発面積	179m ²	調査面積	151.18m ²	調査原因	共同住宅建設
調査期間	20080110～20080218			担当者	屋山 洋

本文目次

I.はじめに	1
II. 調査の記録	6
1. 調査の概要	6
2. 弥生時代から古墳時代前期の遺構と遺物	6
1) 堀立柱建物	6
3. 古代の遺構と遺物	10
1) 包含層	10
2) 溝	10
4. 近世の遺構	12
1) 溝	12
5. 小結	13
表1 遺構一覧表	13

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図(1/25,000)	2
第2図 調査地点位置図(1/4,000)	3
第3図 調査区位置図(1/200)	4
第4図 調査区全体図(1/80)	5
第5図 SB01実測図(1/60)	7
第6図 SB01柱穴土層実測図(1/40)	8
第7図 SB01出土遺物実測図(1/3)	9
第8図 SB02実測図(1/60)	10
第9図 SX006出土遺物(1/3)	10
第10図 SD005土層図(1/20)・出土遺物実測図(1/3)	11
第11図 SD003出土遺物実測図(1/3)	12
第12図 I区西壁土層図(1/60)	12

図版目次

図版1 1. I区全景(南東から) 2. II区全景(北西から)	15
図版2 1. I区西壁土層(北東から) 2. SB01(SP004・021) 東から 3. SB01(SP021・032) 北東から	16
図版3 1. SP021(北東から) 2. SP021土層(北西から) 3. SP021礎板出土状況(北東から)	17
図版4 1. SP021礎板(東から) 2. SP021完掘(東から) 3. SP021礎板下掘り込み土層(東から)	18
図版5 1. SP032土層(北東から) 2. SP032礎板出土状況(東から) 3. SP032礎板下掘り込み(北東から)	19
図版6 1. SP004完掘(東から) 2. SP004土層(北から) 3. SX006(北西から)	20
図版7 1. SD003(北東から) 2. SD005(東から) 3. SD005土層(西から)	21
図版8 出土遺物	22

I. はじめに

1. 調査に至る経過

平成19年（2007年）8月1日付けて高田増男氏から福岡市教育委員会埋蔵文化財第1課に福岡市博多区博多駅南4丁目122番2の共同住宅建設に伴う埋蔵文化財事前審査申請書（19-2-341）が提出された。申請地は周知の埋蔵文化財である比恵遺跡群の中に位置しており、周辺の発掘調査でも弥生時代から古代を中心とする集落等の遺構が確認されているため、申請地においても遺構が存在すると予想された。そのため埋蔵文化財第1課では確認調査を行って遺構の有無を確認することが必要であると判断し、9月10日に重機を使用して確認調査を行ったところ、現地表面から深さ75cmで地山である鳥栖ロームに達して、その上面で遺構を確認した。その結果と建設予定建物の基礎設計を照らし合わせたところ、計画されている建物基礎では遺跡の破壊が避けられないため、建設に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を行い記録保存を図ることで両者の合意が成立した。以上の協議をうけて平成20年（2008年）1月10日から2月18日の期間で発掘調査を行った。調査期間中は調査用に水道の提供などのご協力を頂いた。

2. 調査の組織

調査主体 教育委員会文化財部埋蔵文化財第1課

埋蔵文化財第1課課長 山口譲治

調査係長 米倉秀紀

調査庶務 （前）鈴木由喜 （現）古賀とも子（文化財整備課）

調査担当 屋山 洋

作業員 石田和子 岡部安正 片岡武俊 河原明子 桑原美津子 豊田忠一 中村健三

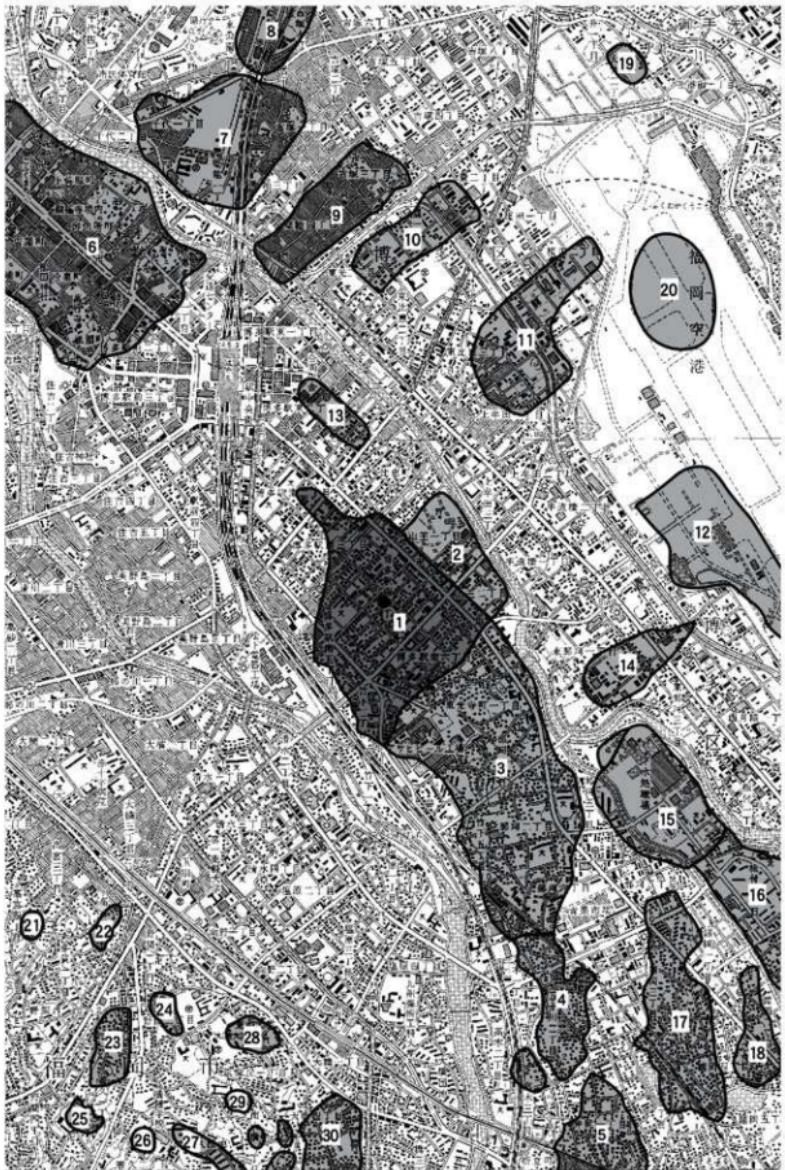
夏秋弘子 西美由喜 前田佳代 水野由美子

整理作業 大石加代子 熊谷幸重 藤野洋子 村上恵子

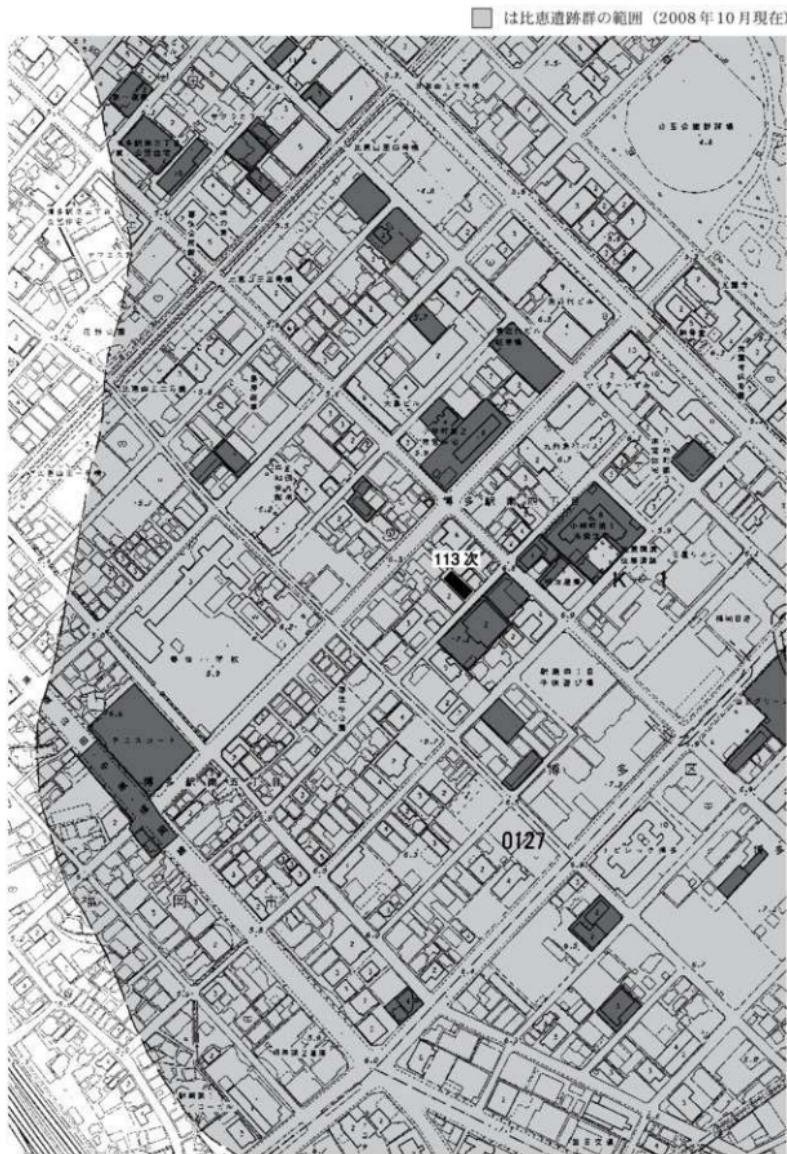
3. 立地と環境

比恵遺跡群は福岡平野の中央を博多湾に向かって流れる那珂川と御笠川に挟まれた標高5～10mの低位丘陵上に立地する。丘陵は花崗岩の風化礫層を基盤とし、その上に堆積した阿蘇山の火砕流である八女粘土層と鳥栖ローム層からなり、鳥栖ローム層の上面が遺構検出面となることが多い。今回の調査地点でも鳥栖ローム上面で遺構を確認した。

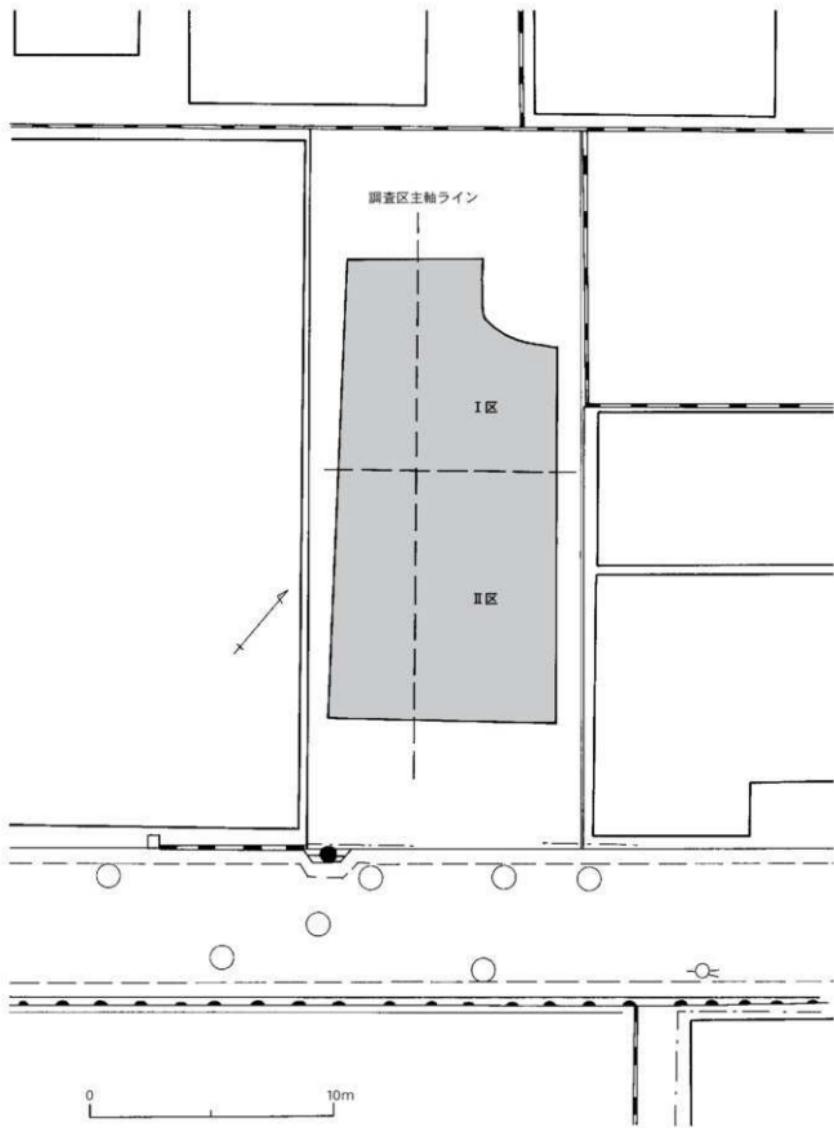
近隣の遺跡としては春日市から博多湾に向かって伸びる同一の丘陵上に博多湾側から比恵遺跡群、那珂遺跡群、五十川遺跡、井尻B遺跡、寺島遺跡、須玖岡本遺跡と続いている、奴国を中心と考えられている春日市の須玖遺跡群一帯と博多湾を結ぶ連続した低位丘陵上だけに弥生時代から古墳時代前期にかけての遺構が多く密に分布しており、青銅製品が多く出土すると共に鋳型や坩埚など青銅器鋳造関連遺物も多く出土する地域である。比恵遺跡群は南側に隣接する那珂遺跡群とは浅い谷で区分されている。遺物は旧石器時代のナイフ型石器が出土しているが、遺構は現在縄文晩期の突帯文期の遺構が最も古く丘陵縁辺に分布する。弥生時代中期以降に集落は丘陵全体に広がり、銅鏡や青銅製鋤先などの青銅製品が出土すると共に青銅器の坩埚や鋳型が出土しており、青銅器関連施設が作られるなど奴国の拠点集落のひとつとなっている。古墳時代後期から古代にかけては遺跡北側に大型掘立柱建物群とそれを囲む柵列が築かれるようになるが、現在では大宰府の前身である『那津官家』と考えられるなど、古代においても重要な遺跡が多く集中する地域である。



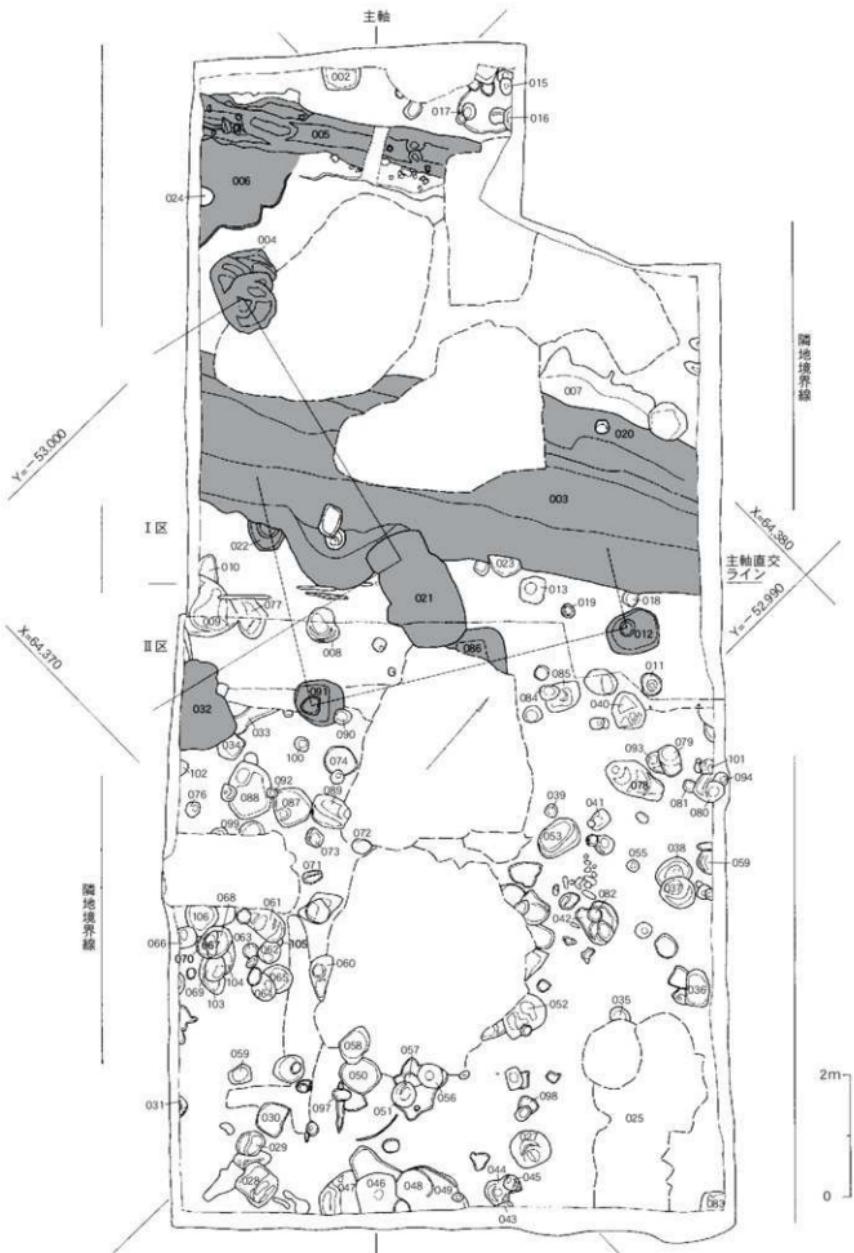
第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 調査地点位置図 (1/4,000)



第3図 調査区位置図 (1/200)



第4図 調査区全体図 (1/80)

II. 調査の記録

1. 調査の概要

調査対象地は長期間コンクリート敷きの駐車場として利用されていたが、調査開始時にはコンクリートは完全に剥がされて全面が砂利敷きの平地となっており、標高は6.7mを測る。遺構面までの深さは調査区の南側で70cm前後を測り、土層は現地表-30cmが砂利、-50cmまでが近現代盛土（ロームを多量に含む）、-70cmまでが耕作土と思われる暗褐色土で、その下で鳥栖ロームの上面に達した。調査区中央北側に位置するSD003から北側は鳥栖ローム面までの深さが深くなり、南側では最下層である暗褐色土の下に茶褐色土層があって現地表から鳥栖ローム面までの深さは106cmを測る。調査工程は、遺構面までが深くて廃土量が多いことから1度に全体を調査することができず、調査区を北側のI区と南側のII区に分けてI区から調査を行った。調査はまず1月9日にユニットハウス等を搬入して、翌10日に発掘機材の搬入と重機による表土剥ぎを行った。1月24日にI区の調査が終了したので、25日に重機による反転を行いII区の調査を開始した。II区も攪乱が多かったためまずそれを掘り上げた後、遺構の掘下げを開始した。II区で検出した遺構は大型掘立柱建物の柱穴であるSP021・032の他は径30~60cmほどの柱穴状遺構がほとんどである。柱穴状遺構の多くはしっかりした掘方であるが、調査区が狭く攪乱も多かったため掘立柱建物は2棟しか建て得なかった。

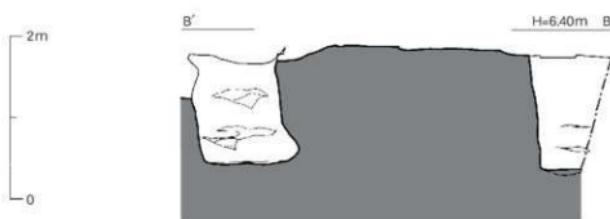
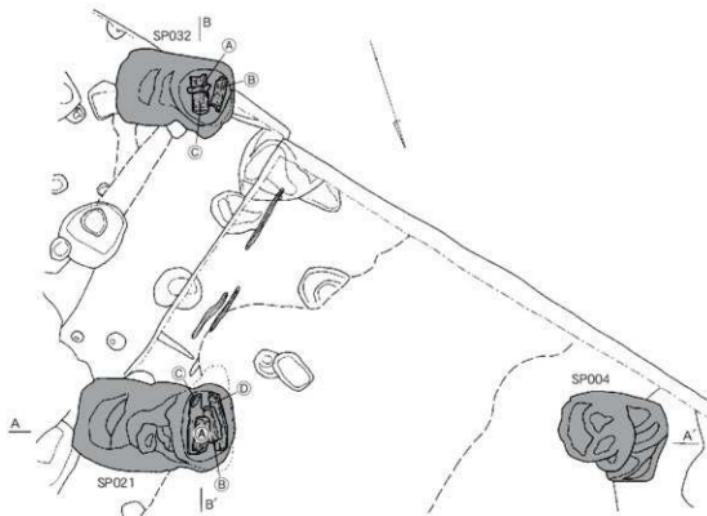
2月14日にII区の調査が終了したため2月15日に重機を使用して埋め戻しを行い、2月18日に発掘機材の撤去、2月20日にユニット・トイレの撤去を行った。

今回の調査で確認した遺構は弥生時代後期から古墳時代前期の遺構が掘立柱建物2棟と土坑、柱穴群で、古墳時代後期から古代の遺構が溝と柱穴群、近世の遺構が溝1条である。

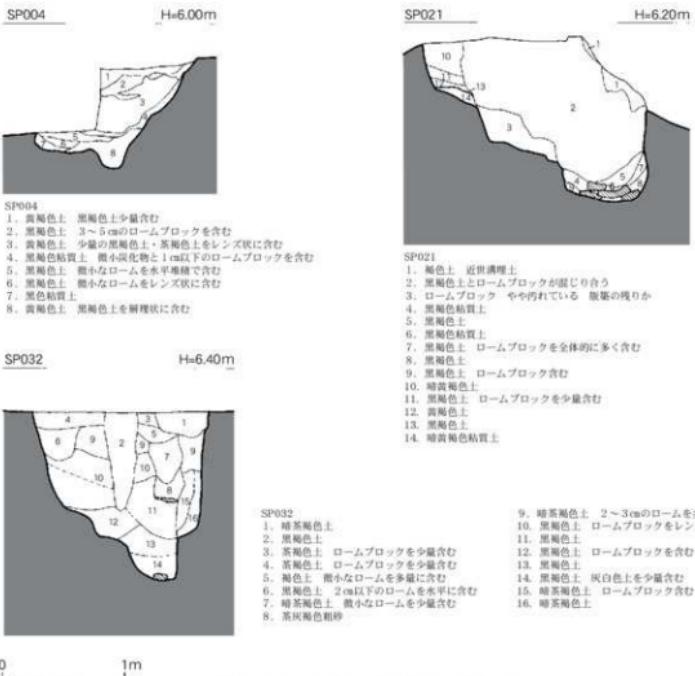
2. 弥生時代から古墳時代前期の遺構と遺物

1) 掘立柱建物 調査区中央から北側部分で2棟検出した。その他にも多くの柱穴群が出土しており、多くの掘立柱建物が建っていたものと思われる。

SBO1(第5~7図) 調査区の北西側で検出した。調査区内では1×1間であるが、南側に延びて1×2間程度になる可能性が高いと思われる。主軸はN-18°-Eで梁間は5m、桁行きは2間とすると8.2mを測る。柱間は東西(SP004~021間)の梁間が5m、南北(SP021~032間)が4.1mを測る。柱穴は北東隅のSP004は大きく削平を受けており掘方平面の規模は不明であるが、SP021は現状で長径2m、短径1.15m、深さ1.35mを測り、SP032は長径1.45m、短径0.9m、深さ1.45mを測る。土層(第6図)からするとSP021は建物廃棄時に柱を抜き再利用している。SP032は後世の柱穴に切られており分かりにくいが、礎板が遺存しているにもかかわらず柱痕跡がないことから柱は抜いたものと考えられる。ちなみに2層と7・8層はそれぞれ後世の柱痕跡で8層下の斜線は礎板痕跡である。SP004の土層も版築が攪拌された状態を示しており、柱を抜いたものと考えられる。いずれも柱穴掘方平面は東西方向に長く、建物中心側(SP004は東側、SP021とSP032は西側)に向かって階段状、もしくは緩やかに低くなる。SP021の礎板は長さ40~70cm、厚さ8cm前後に加工した板材が長軸をそろえて底面に並んだ状態で出土したが、上の短いAとBは柱の抜き取りの際に動いている可能性がある。掘方底面に70cm前後の材(C・D)を据え平坦面を作っているが、A・Bは高さ調節用か、もしくは両側から固定するためのものと思われる。SP032は長さ50cm、幅10~20cmの板材である2枚(BとC)と長さ30cm、幅8cm程の板材Aが出土している。こちらも板材が動いていると思われるが、柱材はCの上に据えたのであろうか。SP021・032の両方とも礎板の下で径25~30cm、深さ約30cmの掘り込みを確認した。埋土は八女粘土が褐色に汚れたもので分層はでき

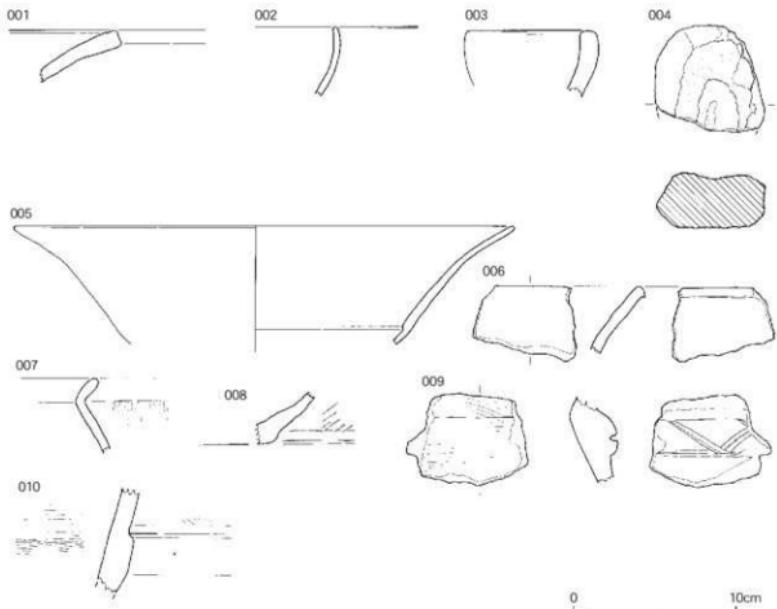


第5図 SB01実測図 (1/60)



第6図 SB01柱穴土層実測図（1/40）

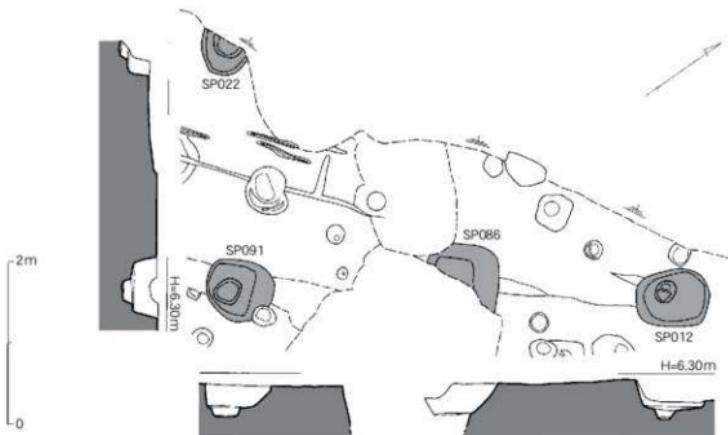
す。鳥栖ローム等の混じり込みもみられなかった（図版4-3）。最初に掘ったSP004では礎板がなかったため気づかなかったが、底面西側の窪みがそれに当たるものと思われる。掘り込みの性格は不明である。各柱穴から出土した遺物は遺構一覧表（P13・P14）の記載どおりで、ほとんどが弥生時代の中期後半から後期の土器片であるが、SP021と032からは土師碗や壺、高杯など古墳時代前期と思われる土器片が出土しており、掘立柱建物の時期を示すものと思われる。出土遺物（第7図001～010）。001～004はSP021から出土した。001は甕口縁端である。茶褐色を呈し微小～2mm程の白色砂を多く含むと共に微小雲母片も少量含んでいる。表面がほとんど剥落しており調整は不明である。002は土師器碗口縁である。色調は淡赤橙色を呈し1mm以下の白色砂を少量含んでいる。軟質なため調整は不明である。古墳時代前期か。003は口径が8～10cmほどの小椀型を呈す。色調は外側が橙色から橙白色であるが、内面は黒褐色を呈し被熱した可能性がある。器壁は約1cmと厚い。胎土には少量の白色砂を含む。被熱したと思われることから坩堝の可能性が考えられたが、福岡市立埋蔵文化財センターで行った蛍光X線による検査では内面から銅・鉄など金属の反応はなかった。004は凹石である。平面図の下方で割れているが、現状で長さ6.5cm、幅6.8cm、厚さ3.3cmを測る。上面が長さ3cm、幅2.6cmの範囲で窪む。石材は砂岩で全体的に剥落が激しい。005～010はSP032出土である。005は高杯の杯部で復元口径31cmを測る。赤橙色を呈し、胎土中に砂をほとんど含まず、微小な雲母片を少量のみ含む。006は甕口縁である。口縁は「く」の字に立ち上がり、口縁端部は外側にわず



第7図 SB01出土遺物実測図 (1/3)

かに突き出る。色調は内面が黒褐色、外表面が淡褐色を呈し胎土中に1~2mmの白色砂を多量に含む。調整は摩滅のため不明。007は甕口縁である。黄白色を呈し外表面に黒斑がみられる。調整は外表面胴部に緩ハケを施す。白色砂を多く含み軟質。008は甕底部である。外表面は橙色、内面は暗褐色を呈し1~2mmの白色砂を多く含む。調整は外表面胴部が粗い斜め方向のタタキ、底部はナデ。胴部と底部間に段がみられる。009は甕棺肩部突帯である。表面は淡橙色で、胎土は灰黄褐色を呈し白色砂を多量に含む。調整は突帯部はナデで、線刻による斜線がみられる。突帯下は斜め方向のナデ、内面は括れ部から下が横ハケ、上が若干斜め方向のハケを施す。010は甕棺胴部下半の突帯である。赤橙色を呈し2mm以下の白色砂と微小な雲母片を含む。調整は突帯が横方向のケズリ、突帯から上が斜め方向のハケ、内面は横方向の粗いハケを施す。遺物は弥生時代後期の土器が多いが、古墳時代前期の土器が若干出土しており、建物の時期としては古墳時代前期と考えられる。

SB02 (第8図) 調査区中央部で検出した。調査区内では1×2間であるが北側は近世の溝による削平を受け、また東西両端の柱穴と調査区端との関係から北東・北西・南西の3方に延びる可能性がある。現在確認できている1×2間の建物とすると主軸はN-36°Eで梁間は全長5.5m、桁行きは3mを測る。柱間は推定で2.5m~3mと思われる。柱穴平面は隅丸方形もしくは不整梢円形で径80~90cm、深さ40~50cmを測る。いずれも30~35cmほど掘り下げた後、底面中央部を径30~40cm、深さ10~15cmほど掘り下げて柱を固定している。出土遺物はいずれも小片のため実測図は記載しないが、ほとんどが弥生時代の土器である。SP091から古墳時代前期の可能性がある土器片が出土しているが、小片のため時期決定は困難であり、弥生時代後期以降とする。



第8図 SB 02実測図 (1/60)

3. 古代の遺構と遺物

1) 包含層

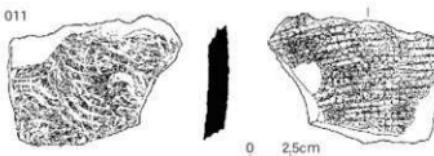
SX006 (第4図) 調査区の北端部に位置しており、SD 005の上面を覆う。遺存状態は悪く、何らかの遺構の残れである可能性もある。深さは2~4cmでSD 005に被さった部分はSD 005の埋土が沈み込んだため一緒に沈み込んでいる。遺物は地山のロームにくい込むような状態で礫と土器片が出土しており、遺物の出土状況からは道路状遺構などの可能性もあると思われる。遺物は弥生時代中期から後半の遺物と古墳時代後期の須恵器甕が出土しているが、7世紀の溝であるSD 005の上に被さっていることから古代以降である。出土遺物 (第9図)。011は須恵器甕片である。色調は外面が暗灰、内面青灰色を呈し、1mm以下の白色砂を少量含む。

2) 溝 調査区西端で1条出土した。

SD 005 (第10図) 調査区の北端部に位置する東西方向の溝で主軸をN-58°-Eにとる。現状で長さ4.8m、幅50~70cm、深さ50cmを測る。断面はU字型で埋土は暗褐色を呈す。遺物は弥生時代中期後半~古墳時代前期の遺物や古墳時代後期の須恵器(甕、器台)と共に須恵質高台付坏と瓦片が出土しており時期は7世紀末頃と考えられる。本調査区の北側には『那津官家』と推定される大型掘立柱建物群と3本柱の柵列が確認されており、それとの関連が考えられる。出土遺物 (第10図012~032)。012~016は須恵器甕である。

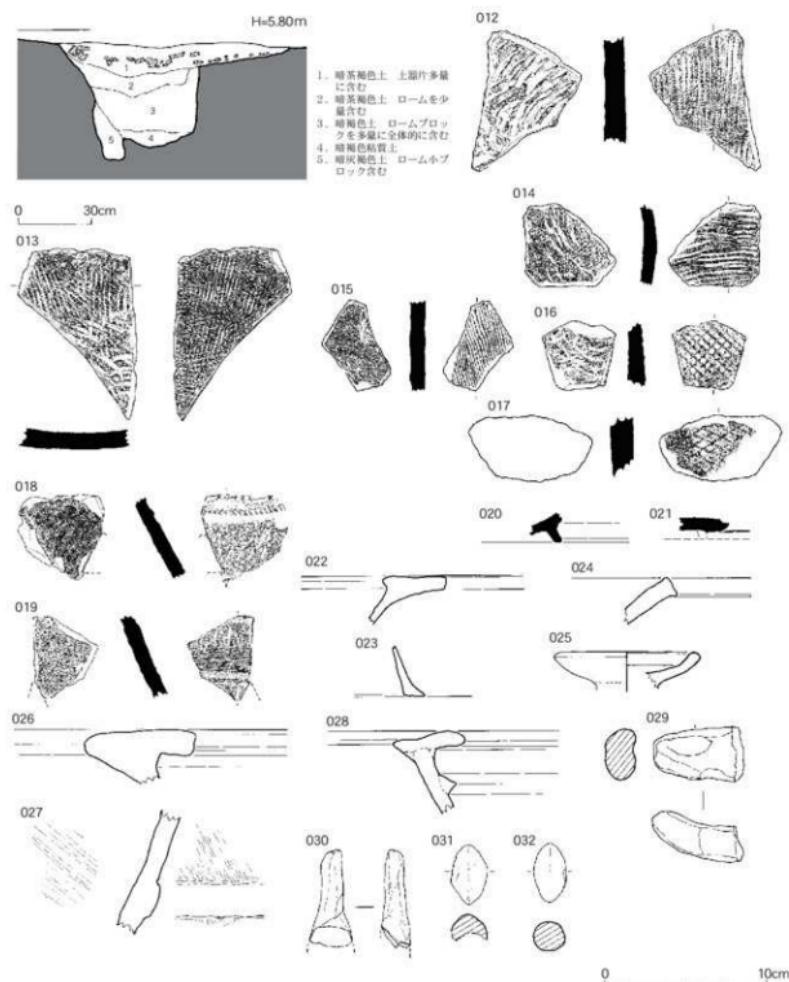
018・019は須恵器台脚部である。

018は灰色~灰白色を呈し胎土は精良で砂をほとんど含まない。外面はナデの後波状文を施し、薄く灰釉がかかる。三角形の透かしが上下に並ぶ。019は暗青灰色を呈し微小な白色砂を多量に含む。焼成は良好。調



第9図 SX 006出土遺物 (1/3)

整は内面が縦～斜めのナデ、外面は粗い横ハケの後波状文を施す。透かしは三角形と思われる。020・021は須恵器高台付坏である。020は灰白色を呈し胎土はやや粗め、胎土中に白色砂を多量に含み、黒色粒をわずかに含む。021は灰白色を呈し胎土精良で砂は含まない。高台は欠損しているが、短く垂直に付くタイプと考えられる。022～032は弥生時代から古墳時代前期の遺物で022が高坏口縁、



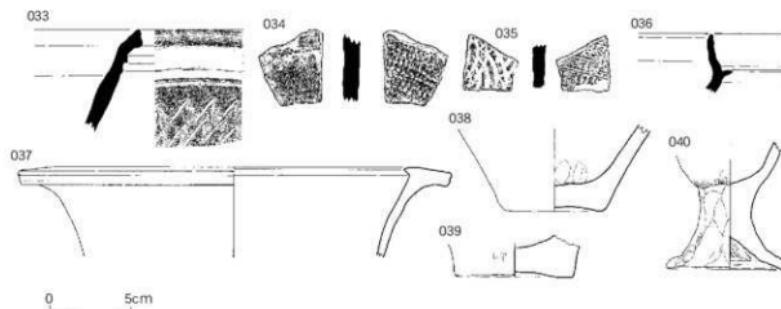
第10図 SD 005 土層図 (1/20)・出土遺物実測図 (1/3)

023は高坏もしくは器台の脚部か。024は壺口縁端である。にぶい黄橙色を呈し1~2mmの白色砂を多く含む。調整は外面がナデで、口縁端と内面は横方向の粗いハケを施す。025は器台である。026・027は甕棺で、026は中期中頃の口縁、027は後期の胴部下半突帯部である。028は弥生時代中期の甕、029は瓶取手、030は土製匙で表面は黄白色を呈しやや軟質である。遺存長5.9cmを測る。031・032は土製投弾で長さはどちらも約3.6cm、径は031が1.8cmを測る。

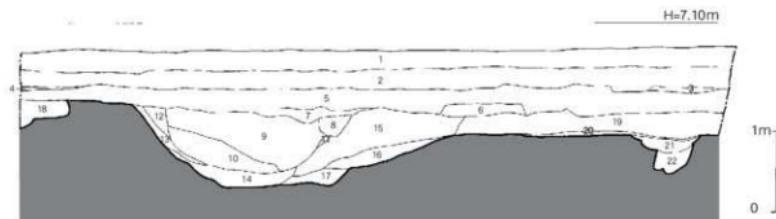
4. 近世の遺構

1) 溝 調査区中央で1条検出した。土層によると古墳時代後期から古代においてローム上面は近世溝の南北で50cm以上の高低差があったことが分かるが、近世溝が掘られた時点では北側に包含層が形成され、ほぼ同一の高さになっている。

SD003(第4・11図) 調査区中央に位置する東西方向の溝で主軸をN-59°-Eにとる。現状で長さ8.5m、幅2~3m、深さ1mを測る。底面はほとんど平坦であるが、北東側が3~4cmほど低い。覆土の上中層はロームブロックを多く含む暗茶褐色土で、弥生時代後期から古墳時代前期の遺物を多く含むことから古墳時代前期の溝と考えて掘り下げたが、底面直上の青灰グライ土(第12図14層)



第11図 SD003出土遺物実測図(1/3)



第12図 I区西壁土層図(1/60)

- | | | |
|----------|-------------------------|----------------------------------|
| 1. 砂利 | 8. 埋葉色土 | 15. 灰褐色土 |
| 2. 砂利盛り土 | 9. 埋葉色土 | 16. 灰褐色粘質土 白色砂を含む |
| 3. 粘土質土 | 10. 硅藻土(ロームブロック) | 17. 埋葉色土 こまかのロームブロックを全体的に含む |
| 4. 粘土土 | 11. 埋葉色土 | 18. 埋葉色土 多量のロームブロックを含む |
| 5. 灰茶褐色土 | 12. 黄褐色 | 19. 埋葉色土 |
| 6. 灰茶褐色土 | 13. 埋葉色土 こまかのロームブロックを含む | 20. 埋葉色土 上部片多く含む |
| 7. 灰茶褐色土 | 14. 青灰グライ土 土脚片多く含む | 21. 埋葉色土 粘物を多く含む 多量の土脚片が敷いたように出土 |

*9~17層はSD003、21層はSX006、21~22層はSD005である。

から、龍泉窯系青磁碗II類や白磁碗IV類など12世紀前後の貿易陶磁と共に近世国産陶磁碗が出土した。これにより近世の溝であることと、今回の調査で遺構は確認できなかったものの、12世紀前後の遺構が存在したことが判明した。遺物は弥生時代から古墳時代にかけての土器を図示する。出土遺物(第11図033~040)。033は須恵器台口縁である。暗灰色を呈し、胎土は精良で白色砂を少量含む。口縁は断面三角形で2条の小さな突起の下に波状文を施す。034・035は須恵器甕である。034は外面は格子タタキの上に灰釉がかかり黒色、内面は灰色を呈す。1~2mmの白色砂を含む。035は暗灰色で胎土は精良で砂をほとんど含まない。調整は外面がナデ、内面は同心円状のタタキである。036は須恵器壺である。灰白色で外面肩部に若干の灰釉がかかる。調整は横ナデである。037~039は弥生時代中頃の壺・甕である。他の遺構から出土した弥生時代の遺物は中期後葉のものが多いが中期中頃の遺物も出土しており、周間に弥生時代中期中頃の遺構が存在したことが判る。

5. 小結

確認した遺構としては1. 弥生時代中期中頃から古墳時代前期、2. 古墳時代後期から古代、3. 近世の3時期がある。古代末から中世初頭は遺物のみの出土である。南側隣接地の第5次調査地点は本調査区に比べて60~80cmほど高くなってしまい、調査時に弥生時代の堅穴式住居や土坑の密な分布が確認されているが、本調査区でこれらの遺構がみられないのは削平により消滅したものと思われる。

ただ北側では鳥栖ロームの上の茶褐色土のように包含層らしきものも確認されているため、地形としては北側に傾斜しており調査区北端部はあまり削平を受けていない可能性がある。本調査で検出できた遺構は1の時期は掘立柱建物と柱穴群である。掘立柱建物のSB01は柱間が4～5m、1×2間の建物と想定すると40m²の床面積を測る大型の建物である。2の時期では溝と柱穴群を確認した。遺構の密度は薄い。遺物は須恵器器台片が3点程出土しているが古墳由来か。3の時期は溝1条を確認した。土層観察によるとわずかに水が溜まっていたものの、流れていた様子はない。また陶磁器など生活道具も出土していることから田畑の用排水路ではなく集落などを開む堀であった可能性が考えられる。

遺構一覽表

018	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	24	24 不明	上端片多點		
019	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	23	7 不明	上端片多點		
020	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	22	21 不明	上端片多點		
021	I区	柱穴	SP [†] 漢九丸方形	20±	20± 佚生時代中期～後期	上端片多點(佚生時代中期～後期)、鐵碳石片	SB01	
021	I区	柱穴	SP [†] 漢九丸方形	20±	20± 佚生時代中期～後期	上端片多點(佚生時代中期～後期)、鐵碳石片	SB01	
022	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楕円形	29	不明	上端片多點	SB02	
023	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楕円形	53	28 佚生時代中期～後期	上端片多點		
024	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楕円形	32	17 佚生時代中期	上端片多點(佚生時代中期)		
025	I区	匂尾	方形	130	现代	上端片多點(佚生時代中期)		
026	I区	匂尾	不規則形	230	37 現代	上端片多點(佚生時代中期)		
027	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	62×59	53 古墳時代前期	高环脚底(古墳時代前中期)、雲口縫合(佚生時代後期)、L型口縫合、上端片(佚生時代中期～古墳時代前中期)		
028	I区	柱穴式遺構	SP [†] 漢九丸方形	63×59	27 佚生時代中期以降	L型口縫合、赤色顔料付着上端片、上端片多點、黑碳石片		
029	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	49×40	151 佚生時代中期	雲口縫合(佚生時代中期～後期)、上端片(佚生時代中期)		
030	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	54×43	21 佚生時代	上端片(佚生時代中期～後期)、L型口縫合		
031	I区	匂尾	円形	52	37 現代	毛尖足、高环脚底(古墳時代)、上端片(佚生時代～古墳時代)		
032	I区	柱穴	SP [†] 方形	145	佚生時代後期～古墳時代	高环脚底(佚生時代末期～古墳時代初期)、直口縫合(佚生時代後期～古墳時代)、L型口縫合(佚生時代中期)、L型口縫合(佚生時代中期)、上端片(台外佚生時代中期～後期)、底部(台外佚生時代中期)、L型口縫合(佚生時代中期)、上端片(SB01)	SB01	
033	I区	溝狀遺構	SD [†] 溝	29	4 不明	上端片多點		
034	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	44	7 佚生時代中期	L型口縫合、雲口縫合(佚生時代中期)		
035	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	不明	不明	雲口縫合(佚生時代中期～後期)、上端片(不明)		
036	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	60×37	8 雲口縫合	上端片(不明)		
037	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	58×51	141 佚生時代～古墳時代	上端片(佚生時代～古墳時代)		
038	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	57×47	24 佚生時代～古墳時代後期	上端片(佚生時代～古墳時代後期)、L型口縫合		
039	I区	柱穴式遺構	SP [†] 漢九丸方形	20	20 佚生時代中期～古墳時代前中期	上端片(佚生時代中期～古墳時代前中期)、L型口縫合		
040	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	59×52	38 佚生中期	赤色顔料付着上端片(佚生時代中期)、L型口縫合、上端片(佚生時代)		
041	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	37×27	11 不明	上端片(不明)		
042	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	3	3 佚生時代中期～後期	雲口縫合(佚生時代中期)、上端片(3点)(佚生時代～古墳時代)		
043	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	25±1	4 不明	上端片(4点)		
044	I区	柱穴式遺構	SP [†] 漢九丸方形	42×38	38 古墳時代前期	高环足、雲口縫合、上端片多點		
045	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	26	18 不明	上端片(1点)		
046	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	57	30 佚生時代後期～古墳時代前期	上端片(佚生時代後期～古墳時代前期)、直口縫合(佚生時代後期～古墳時代)、雲口縫合(佚生時代中期～後期)、L型口縫合、上端片(佚生時代)		
047	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	70±10	29 佚生時代中期～中期	L型口縫合、上端片		
048	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	58	14 不明	上端片(5点)(不明)		
049	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	120±10	10 不明	上端片(5点)(不明)		
050	I区	柱穴式遺構	SP [†] 漢九丸方形	62×57	22 佚生時代中期～後期	L型口縫合、上端片		
051	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	41	14 不明	上端片(5点)		
052	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	70±10	33 佚生時代中期	雲口縫合(佚生時代中期)、上端片多點		
053	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	70±10	7 佚生時代中期	上端片(5点)		
054	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	41	51 不明	上端片(4点)		
055	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	20	20 不明	上端片(1点)		
056	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	42×37	15 不明	上端片(5点)(1点被熱)		
057	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	51	51 佚生時代中期後半	L型口縫合(1点)		
058	I区	柱穴式遺構	SP [†] 漢九丸方形	58×46	40 佚生時代中期～古墳時代前期	上端片(佚生時代中期～古墳時代前期)、直口縫合(佚生時代中期～古墳時代)、雲口縫合(佚生時代中期～古墳時代)		
059	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	38×31	8 不明	上端片(5点)		
060	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	3	34 佚生時代中期後半～後期(3点)	直口縫合(佚生時代中期後半)、雲口縫合(佚生時代中期後半)、赤色顔料付着上端片		
061	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	72×45	24 佚生時代中期	上端片(5点)		
062	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	36	20 古墳時代前期	上端片(5点)		
063	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	26	26 佚生時代後期	雲口縫合(佚生時代後期)、上端片		
064	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	44×39	27 佚生時代～古墳時代	上端片多點		
065	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	49±10	51 古墳時代前期	高环脚底(古墳時代前期)、雲口縫合(古墳時代中期)、赤色顔料付着上端片、雲脚部(佚生時代中期)、雲底部(佚生時代中期)、L型口縫合、上端片多點		
066	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	34	23 佚生時代～古墳時代	上端片(佚生時代～古墳時代)		
067	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	18	39	上端片(3点)		
068	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	50	17 不明	上端片(3点)(不明)		
069	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	46	32	上端片(3点)		
070	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	25	25 佚生時代中期	L型口縫合(5点)		
071	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	30×19	5 不明	上端片(2点)		
072	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	33	45 不明	L型口縫合、上端片(5点)(不明)		
073	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	32	19 不明	上端片(5点)		
074	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	54	26 佚生時代～古墳時代	上端片多點(佚生時代～古墳時代)		
075	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	46	141 佚生時代～古墳時代	上端片多點(佚生時代～古墳時代)		
076	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	26	121 不明	上端片多點(佚生時代～古墳時代)		
077	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	46	91 不明	雲口縫合(5点)		
078	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	100×56	39 佚生時代中期～後期	L型口縫合、雲口縫合(5点)、直口縫合、上端片多點		
079	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	49×34	91 佚生時代中期～後期	花崗岩(一部熱変)、赤色顔料付着上端片(佚生時代中期～後期)		
080	I区	柱穴式遺構	SP [†] 漢九丸方形	48	30 不明	上端片(5点)		
081	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	20	28 不明	雲脚部(5点)		
082	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	23	131 佚生時代中期～後期	雲脚部(3点)		
083	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	48	48 不明	雲脚部(5点)		
084	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	33×25	35 佚生時代	L型口縫合、上端片多點(不明)		
085	I区	柱穴式遺構	SP [†] 漱丸方形	59×47	64 佚生時代中期後半～後期(3点)	直口縫合、雲口縫合(5点)、L型口縫合、赤色顔料付着上端片、上端片多點		
086	I区	柱穴式遺構	SP [†] 漱丸方形	89	39 佚生時代後期	上端片多點		
087	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	66	48 佚生時代中期	L型口縫合、雲底部(佚生時代中期)、赤色顔料付着上端片、上端片多點(佚生時代中期)、L型口縫合(5点)	SB02	
088	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	92×73	26 佚生時代中期	雲脚部(各時代中期)、被熱赤變、高环(中間)、錐型臺面(不明)、上端片多點		
089	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	107×49	33 不明	上端片(5点)(佚生時代中期)		
090	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	26	141 不明	上端片(5点)		
091	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	82×73	43 佚生時代前期	上端片(5点)、雲脚部(5点)、直口縫合(佚生時代後期)、L型口縫合、上端片多點(不明)		
092	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	18	91 不明	上端片(5点)		
093	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	14	不明	上端片(5点)		
094	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	24	24 不明	上端片(5点)		
095	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	1	佚生時代	上端片(5点)(佚生)		
096	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	31	181 佚生時代中期～後期	雲脚部(5点)(佚生時代中期)、上端片多點(佚生時代中期)、L型口縫合、上端片多點(不明)		
097	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	31×19	51 不明	上端片(5点)		
098	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	20	20 古墳時代前期	雲脚部(各時代前期)、雲脚部(5点)、雲脚部(5点)、雲脚部(5点)、雲脚部(5点)、雲脚部(5点)		
099	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	16	16 不明	上端片(5点)、上端片(5点)、上端片(5点)		
100	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	24	30 古墳時代前期	雲(各時代前期～古墳時代)、上端片多點(佚生時代中期)		
101	I区	柱穴式遺構	SP [†] 円形	29	141 不明	上端片(5点)		
102	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	24	191 佚生時代中期	L型口縫合、雲脚部(佚生)		
103	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	60	31 佚生時代後期～古墳時代	雲(各時代後期～古墳時代)、上端片		
104	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	32±10	30 佚生時代中期～後期	雲(佚生時代中期～後期)、L型口縫合、上端片		
105	I区	柱穴式遺構	SP [†] 不規則形	—	— 不明	上端片(5点)		
106	I区	柱穴式遺構	SP [†] 楩円形	53	36 佚生時代中期～後期	雲(各時代中期～後期)、赤色顔料付着上端片、L型口縫合、上端片		
コクリー：一糸赤色顔料付着上端片、L型口縫合、雲脚部(佚生時代中期)、モルタル、脛脛部、雲脚部(佚生時代中期)、白磁片、青磁片、火輪、瓦頭部、赤色顔料付着片(平行タキ・ナジ)、高环脚底(古墳時代前期)、L型口縫合、雲脚部(佚生時代中期)～後期、上端片、黒碳石片。								
検出表 検出表								



1. I 区全景（南東から）



2. II 区全景（北西から）

図版2



1. I区西壁土層（北東から）



2. SB01 (SP004・021) 東から



3. SB01 (SP021・032) 北東から



1. SP021 (北東から)



2. SP021 土層 (北西から)



3. SP021 础板出土状況
(北東から)

図版 4



1. SP 021 硙板（東から）



2. SP 021 完掘（東から）



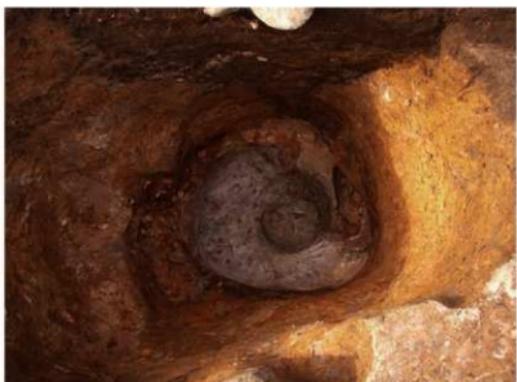
3. SP 021 硙板下掘り込み土層
(東から)



1. SP032 土層（北東から）



2. SP032 磁板出土状況（東から）



3. SP032 磁板下掘り込み
(北東から)

図版 6



1. SP 004 完掘（東から）



2. SP 004 土層（北から）



3. SX 006（北西から）



1. SD 003 (北東から)



2. SD 005 (東から)



3. SD 005 土層 (西から)

图版8



出土遗物

報告書抄録

書名 比恵56
副書名 第113次調査報告
卷次 56
シリーズ名 福岡市埋蔵文化財調査報告書 シリーズ番号 1050集
編集著者 屋山洋 編集機関 福岡市教育委員会 発行機関 福岡市教育委員会
作成法人ID 40134 発行年月日 2009年3月31日
郵便番号 810-8621 住所 福岡市中央区天神1丁目8-1
電話番号 092-711-4667
所収遺跡名 比恵遺跡群第113次
ふくおかんふくおかはかたはかたえみみなみ
所在地 福岡県福岡市博多区博多駅南4丁目122番2
コード 市町村 40131 遺跡番号 020127
北緯 $33^{\circ} 34' 45''$ 東経 $130^{\circ} 25' 45''$
調査期間 20080110~20080218 調査面積 151.18m²
調査原因 共同住宅の建設 種別 集落
主な時代と遺構・遺物
弥生後期 挖立柱建物（土器）-土坑（土器）
古墳時代 溝（土師甕、高坏、須恵器）-柱穴（土師甕）

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1050集

比恵56

-第113次調査報告-

2009年（平成21年）3月31日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8-1
印刷 株式会社 伸和
福岡市東区社領2-7-4